

プリントプロセスー

プラチナ・パラジウム・プリント

志鎌 猛は、被写体の細部までじっと見つめて向き合い撮影するのと同様に、最終的なオブジェクト：プリントの制作にも重きを置いている。

その作品は、プラチナ・パラジウム・プリント技法と、雁皮の木の樹皮で手漉きされる日本伝統の雁皮紙を用いて、すべて自身の手により制作している。一枚一枚、感光液を手塗りして印画紙を作り、ネガと密着焼き付けする。この古典技法によるプリントの工程は手間と集中力を要するが、その分、自らの目指す表現に心を注ぎ、自分との関係を深めながら制作に取り組んでいる。

プラチナ・パラジウム・プリントは、ベルベットのような滑らかなグレーの階調に豊む。画面に緻密で深みのある表情をもたらし、同じネガを用いても、ゼラチン・シルバー・プリントにも勝るきめ細かい表現が可能になる。また雁皮紙の繊細さは、プリントそれぞれに職人技の一点ものとも言うべき得難い表情を与える。その独特の色調は、被写体の細部を損なうことなく、プラチナの黒を和らげる。

保存性に優れているのもこの技法の特徴で、プリントは適切な保管状態のもとでは数百年長持ちする。画像は日光によって退色することがなく、画面は損傷せず、雁皮紙にも長期耐久性がある。プラチナ・パラジウム・プリントは永遠のアートである。